

第473回 番組審議会

1. 日 時 平成24年3月21日(水) 午後1時30分～

2. 開催場所 テレビ岩手 6階大会議室

3. 委員総数 11名

出席委員 3名

委 員 坂本 修
委 員 池田 克典
委 員 遠藤 雅也

欠席委員 8名

委 員 長 清野 雅子
副 委 員 長 千葉 幸長
委 員 望月 善次
委 員 福田 泰司
委 員 柴田 和子
委 員 吉江 信博
委 員 鈴木 正之
委 員 平 英一

社 側 出 席 者 矢後 勝洋 (代表取締役会長)
檜崎 憲二 (代表取締役社長)
石井 修平 (専務取締役)
淵沢 行則 (取締役報道制作局長)
遠藤 隆 (報道制作局次長)

事 務 局 山信田 寧 (編成技術局長)
畠 義真 (編成技術局編成部長)
平山 亜希子 (編成技術局編成部主任)

4. 議 題

1. 3/11(土) 10:40～11:40

テレビ岩手報道特別番組 3・11 あれから1年

2. その他ご覧になった番組についてのご意見

5. 資料

資料として以下のものを配布

- ・ 視聴者からのご意見

6. 意見

委員側意見

○被災地の空撮は、白い平原が続き、絵としてつまらないと最初は思ったが、復興の遅れが緒にもついていないことが如実に映像が示していた。

あるべき人の営み、歴史、未来を白紙にした残酷さ、虚脱感、虚無感、道のりの遠さを示していて印象深かった。

○仮設住宅に記者を1泊させたのは面白いが、仮設住宅の心の問題や、過度のアルコール摂取、無気力、コミュニティーの崩壊などへのアプローチもあればと思った。

○番組タイトルが「あれから1年」というのが「あれ」という指示代名詞でことが済むのか。軽い感じがした。

○被災状況をあらためてみて、三鉄は地域に欠かせないと認識したので、メディアの力を発揮してもらえればと思う。

○漁業にがんばっている山崎さんは、震災の先が見えないというさまざまな不安な状況の中、ほほえみながら答えてくれて、漁業界全体に明るい兆しも感じられた。

○大槌漁協の復旧の割合がほかの漁協と比べてどうかというのが詳しく把握できればなおよかった。

テレビ岩手側意見

○復興への道は遠く険しいので、日々のニュース番組で課題、現状を報道、指摘していきたい。

○震災から1年がすぎて、関心が低下している。どうやって継続していくか今後の課題としてやっていきたい。

○NNN ドキュメントでも取材したが、国や県の制度とぶつかる面がある。個々のケースを当たりながら、3年後、5年後を見ている。

○街づくりを含めた復興計画、防災計画、心のケアなどの取材が足りない。

消防団は別だが、警察官など公的なもので派遣されてきた人が頑張るのは当たり前。被害者が抱えているものから大きな問題がみえてくるものを大事にしくちやいけなとおもう。

7. 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置及びその年月日

特記事項はないが、関連部署に議事録を配布するなど関係者に審議の内容を伝えた。

8. 審議機関の答申又は意見の概要を公表した場合におけるその公表の内容、方法及び年月日

- ・自社制作番組「あなたと歩むテレビ岩手」

平成 24 年 3 月 27 日(火) (午前 11 時 45 分～11 時 52 分放送) で、審議の概要を放送。

- ・支社・支局に議事録を設置
- ・当社のインターネットのホームページで議事録を公開